

二一〇六番

さ額田ぬかたの 野辺のへの秋萩あきはぎ 時ときなれば 今いま盛りさかなり
折をりてかざさむ

二一〇七番

ことさらに 衣ころもは摺すらじ をみなへし 佐紀野さきのの
の萩はぎに にほひて居をらむ

二一〇八番

秋風あきかぜは とくとく吹ふき来こ 萩はぎの花はな 散ちらまく惜をし
み 競きほひ立たつ見みむ

二一〇九番

我がやどの 萩はぎの末長うれながし 秋風あきかぜの 吹ふきなむ時ときに
咲さかむと思おもひて